



プレスリリース

平成 26 年 12 月 24 日 14:00

河南記者クラブ 会員各位
大阪科学・大学記者クラブ 会員各位

農林水産省の 2014 年農林水産研究成果 10 大トピックスに 「飛ばないナミテントウの育成と利用技術の開発」が選出されました

当研究所が独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 近畿中国四国農業研究センター（広島県福山市、以下近中四農研）を代表機関とするコンソーシアムで岡山大学、(株)アグリ総研、兵庫県、和歌山県、奈良県、徳島県とともに共同研究した「飛ばないナミテントウの育成と利用技術の開発」が 2014 年農林水産研究成果 10 大トピックスに選定されました。



アブラムシの天敵 飛ばないナミテントウ

10 大トピックスは、この 1 年間に新聞などで取り上げられた民間、大学、公立試験研究機関及び独立行政法人研究機関の農林水産研究成果の中から、内容が優れ社会的関心が高いものを農林水産技術会議事務局が農業技術クラブ（農業関係専門紙・誌など 29 社が加盟）の協力を得て選出するものです。

近中四農研では、薬剤での防除が困難なアブラムシを駆除するため、天敵のナミテントウの中から飛翔能力が低く作物上によく定着する系統（飛ばないナミテントウ）を育成しました。当研究所をはじめ近中四農研、大学、府県、企業で研究プロジェクトを立ち上げ、飛ばないナミテントウの実用化を研究し、大量増殖や品質管理法を開発するとともに、複数の作物において飛ばないナミテントウの効果的な利用法を考案しました。その結果、本年 6 月には、施設野菜類用の天敵製剤として販売され、利用法を解説した技術マニュアルも発行しました。

この研究成果は、農林水産省「平成 20～22 年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」の研究課題「多種多様な栽培形態で有効な飛ばないナミテントウ利用技術の開発」により得られたもので、当研究所は、コマツナなど登録農薬の少ない非結球アブラナ科野菜栽培において、飛ばないナミテントウの利用によるアブラムシ防除効果を確認し、利用指針を作成しました。飛ばないナミテントウを利用することにより、農薬使用を削減したアブラムシ防除が可能になり、安全・安心な農産物の生産が可能になります。

【参考資料】農林水産技術会議事務局ホームページ

http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/141210_2.htm